

JCS/TAWC 受賞者の学会参加報告(AHA2019/ESC2019)

国際学会での発表を経験して

東京女子医科大学病院循環器内科学 さいとう ちひろ
齋藤 千紘

この度は第6回 Travel Award for Women Cardiologists (JCS/TAWC) にお選びいただき誠にありがとうございます。2019年8月31日～9月4日にパリで開催された ESC Congress 2019に参加いたしましたのでご報告いたします。今回が私にとっては初めての ESC であり、口頭発表という大変貴重な経験の場をいただきました(図1)。ESCの会場は非常に広く、これまで行ったどの海外学会よりも活発に議論されている印象でした。

今回、「Non-invasive estimation of right atrial pressure by IVC measurement differently predicts long-term prognoses in acute heart failure patients with reduced and preserved LVEF」という循環器領域では非常に身近な指標である下大静脈径測定による右心房圧推定の予後予測について発表しました。急性心不全患者を対象とし、下大静脈の最大径と呼吸性変動の程度により患者を3群に分類することで、左室収縮能に関係なく心血管死リスクを層別化できる可能性があり、さらに左室収縮能が保たれた心不全において心不全再入院を予測しうることを示しました。今までに経験したことのない広い発表会場に緊張はしましたが、無事に発表を終えることができました。質疑応答では自分の英語力不足を痛感し、言いたいことの半分も発信できないことを歯がゆく思いました。反省点もありましたが、自分の専門分野である心エコーを中心に他の研究者の発表を聞いたり、ポスター会場で議論したりと世界中の研究者と交流し意見を交わすことで気づかされることも多く、実りのある学会となりました(図2、図



図1



図2

3). 今後、苦手としている英語力を磨きつつ、患者さんの役に立つ研究を続けていきたいと改めて感じました。また、後輩への指導も積極的に行い育成できればと思います。

最後になりますが、本学会に参加するにあたり助成を頂きました日本循環器学会、ダイバーシティ推進委員会の関係者の皆様方をはじめ、これまでご指導いただいた医局員の先生方にこの場をお借りしてこころより感謝を申し上げます。



図 3

著者の COI (conflicts of interest) 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

*

*

*